

別記

第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和 8年 2月 26日

コミュニティ名 乙訓生活科・総合的学習教育研究会
代表者所属名 長岡京市立長岡第四小学校
代表者職・氏名 教諭 田村 彰造

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

乙訓生活科・総合的学習教育研究会

2 研究テーマ

生活科・総合的な学習の時間における探究的な学びの追究

3 研究の目的

- (1) 生活科・総合的な学習の時間における探究的な学びのあり方について研究を深める。
- (2) 研究の成果を各校で授業実践の場で具現化する。
- (3) 研究の成果を各学校の実践研究に広めていく。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 目指そうとする授業像をメンバーや所属校教員で共有することで、実践研究のベクトルを揃えられた。
- ② 中心となる中堅教員が学校の実践研究をリードしていくことになり、若手教員からも羨望される実践家のモデルを育てることができた。
- ③ 府小研総学時部研究協力校の任期を終えても、研究の質の高まりを継続することによって、以降の研究協力校に、より上質な研究の方向を示すことができた。
- ④ 本コミュニティ育成支援事業を数年スパンで活用することによって、先進校視察を継続し、より質の高い情報入手や研究仲間との交流を続けることができた。また、所属校やメンバーに還元していった。

(2) 課題

- ① 具体的な指導法は多岐にわたるため、引き続き研究が必要である。
- ② 中心となる中堅教員が学校の実践研究をリードしていくことはできたが、若手教員へと引き継いでいくことが十分にできなかった。

5 研究成果の波及方法

- | |
|--|
| <p>(1) 横浜市立大岡小学校の視察で得た学びや研究方法を、本コミュニティにて報告した。</p> <p>(2) 横浜市立大岡小学校の視察で得た学びや研究方法を、前府小研総学時研究協力校において自らの実践として活用した。</p> <p>(3) 京都府教育委員会主催『きょうと明日へのチャレンジコンテスト』で他校に向けて5年生児童がオンライン交流を行った。(岡田、築山担任学級)</p> |
|--|

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年6月	6月4日 岡田淳教諭による授業実践研究 校内授業研究会も兼ねる	長岡京市立長岡 第四小学校
令和7年11月	横浜市立大岡小学校公開授業研究会への先 進校視察	横浜市立大岡小 学校
令和7年12月	先進校視察報告会	Zoom
令和8年1月	京都府教育委員会主催『きょうと明日への チャレンジコンテスト』で5年生児童がオ ンライン交流	Zoom
	若手教職員学び合いのコミュニティ育成支 援事業成果報告会	京都府総合教育 センター

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	探究的に学ぶ授業の創造
育てたい資質能力	探究的に学ぶ児童…主に、問題発見・解決能力 探究的に学ばせる教師…児童に見通しを与え、思考を引き出す発問や授業構成の工夫
実践又は研究の 具体的内容	本実践では、探究的に学ぶ授業の創造をテーマに授業実践を行ってきた。その際教師は、児童が見出す問いや課題を大事にし、解決のための見通しを与えたり、思考を引き出したりする関わりを目指す。 また、思考を引き出す手立ての1つとして思考スキルや思考ツールといった「考えるための技法」を取り入れた授業の研究も行ってきた。

	<p>そうした授業展開の一般化を目指して、実践を通じた授業構成の工夫・改善を研究として進めた。</p> <p>研究の進め方としては、授業実践を軸に児童の学びの姿を見取ったり記録したりした。そして事後研究会で児童の学びに対して授業構成が有効であったかを協議することで、授業改善や児童の見取り方を学ぶ研究とした。</p>
--	--

※ 紙面が不足する場合は、適宜行を足してください。